

令和4年度

福岡県食品ロス削減 優良取組知事表彰



受賞者・取組一覧

(五十音順)

- ・ 特定非営利活動法人 あそびとまなび研究所
「お出かけフードパントリー」「お出かけフードドライブ」の実施
- ・ イオン九州株式会社
イオン・マックスバリュ県内全53店舗でのフードドライブ実施
- ・ 特定非営利活動法人 エコけん
食品ロス削減啓発事業「エコエコクッキング教室」の開催・活用
- ・ エフコープ生活協同組合
配送センターを利用した「こども応援団」によるフードパントリー
- ・ ダイハツ工業株式会社
従業員食堂の利用者予測改善によるフードロス削減の取組
- ・ 株式会社 たけ屋
麺の切れ端を利用した「お子様うどん」の無料提供



「お出かけフードパントリー」 「お出かけフードドライブ」の実施

特定非営利活動法人 あそびとまなび研究所（北九州市）

取組概要

- 企業やお寺等がフードドライブ活動で回収した食品や、食品工場や農家から直接提供された食品等を各地で「お出かけフードパントリー」を開催して食品を必要としている方に配布。
- 当団体でも独自に北九州市各地へ出張し、「お出かけフードドライブ」を実施。

取組のポイント

- 「お出かけフードパントリー」「お出かけフードドライブ」は、北九州市内のどこへでも出張開催でき、市民センターや商店街などでの活動を通じて、より多くの市民が取組に参加できる機会を創出。
- 寄付された食品を各地で配布する「お出かけフードパントリー」の開催に加え、活動拠点である北九州市立大学ひびきのキャンパス内でも、毎週定例でフードパントリーを開催することで、常時食品を受け入れることができ、近隣の企業やお寺、農家などとの連携を図りながら活動している。
- 子ども達への啓発活動をきっかけに地域の学生が校内でフードパントリーを実施するなど、他団体にも取組が広がっている。

成果・効果

寄付された食品をフードパントリーで配布。

（例：市内の商業施設で親子連れ等を対象に
およそ100食分を配布 など。）

取組実施期間

2019年～現在



イオン・マックスバリュ 県内全53店舗でのフードドライブ実施

イオン九州株式会社（県内全域）

取組概要

県内のイオン（総合スーパー）及びマックスバリュ（食品スーパー）全店（エクスプレス、ザ・ビッグ除く）において、フードドライブを実施。

取組のポイント

- ・ 当初は北九州市の3店舗からスタート。その後、お客様からの高い評価をもとに、取組を県内全店に拡大。また、福岡県をモデルに九州全県にも展開。
- ・ 会社方針“あしたの九州にできること”の推進として、“もったいないをありがとう”を合言葉に、入口は『フードロス削減』、出口は『福祉』の目的を全従業員と共有し、従業員自らがフードドライブに参加するように意識付けを実施。
- ・ 県内5つのフードバンク団体と連携し、地域の寄付商品は地元のフードバンクへ寄贈。（お客様からの寄付商品の地産地消を推進）

成果・効果

寄付重量累計 14.3t

取組実施期間

2019年～現在（毎月第2月曜日から7日間開催。）



食品ロス削減啓発事業 「エコエコクッキング教室」の開催・活用

特定非営利活動法人 エコけん（古賀市・福津市・新宮町）

取組概要

- 古賀清掃工場に併設する環境学習施設で大人を対象に毎月1回「エコエコクッキング教室」を開催。
- 夏休み・春休み期間中は小学生等を対象に「子ども(親子)エコエコクッキング教室」を開催し、将来世代の育成も図っている。

取組のポイント

- 食品ロス削減につながる買い物の仕方・食材利用・リメイクレシピ等について、講話・体験を通じた実践的な学びと情報交流の場を提供。
- 教室でのリメイクレシピは 団体HPで公開し、教室開催の様子はSNSで発信。
- 講師や家事に熟達している参加者が生活の中で蓄積した食品ロス削減の取組のアイデアを掘り起こし、講義資料に反映。

成果・効果

- 教室を200回以上開催し、延べ2200人が受講。
- 受講者のアンケートでは90%が「食品ロス削減のヒントがあった」と回答。

取組実施期間

2003年～現在



おせちリメイク提案調理

配送センターを利用した 「こども応援団」によるフードパントリー

エフコープ生活協同組合（太宰府市・県内全域）

取組概要

- エフコープと4つの団体(※)が協働して「筑紫地区こども応援団」を発足し、フードバンク活動などで集めた食品をエフコープ太宰府支所の配送センターを開放して開催するフードパントリーで配布。
- エフコープ全店でフードドライブを開催。

(※)・(特非)チャイルドケアセンター
・筑紫女学園大学の学生や教職員
・(株)西松建設 九州支社
・ふくおか筑紫フードバンク運営委員会

取組のポイント

- 通常は配送センターとして使用しているプラットホームを有効活用し、配送トラックが出払っている時間帯に、仕分け、積み込み作業の場として使用。
- 子ども食堂約25団体がフードパントリーに参加。食品の仕分けも、子ども食堂運営者だけでなく、保険会社スタッフが協力するなど、様々な団体に協力の輪が広がっている。



成果・効果

- 「筑紫地区こども応援団」 累計で46,568世帯に85tの寄贈食品を提供。
- 「エフコープ店舗のフードドライブ活動」 累計4,969kgの食品を回収し、フードバンク団体へ寄贈。

取組実施期間

- 「筑紫地区こども応援団」 2020年～現在（毎月第2木曜日に開催予定）
- 「エフコープ店舗のフードドライブ活動」 2018年～現在（奇数月と10月に実施）



従業員食堂の利用者予測改善による フードロス削減の取組

ダイハツ工業株式会社 九州開発センター（久留米市）

取組概要

- 敷地内への入場ログから出社人数を自動集計し、食堂業者へ自動でメール配信することで、従業員食堂での喫食者数を予測し、作り過ぎを削減。
- 食堂で使用する食器の工夫や保存食の活用、食品サンプルの展示を廃止することによりフードロスを削減。

取組のポイント

- 敷地内への入場ログを活用したこの取組は、他の事業所でも実践できる。今後は社内の各事業所へ横展開する予定。
- 丼サイズの適正化（丼を大から中サイズに変更）や穴あきレンゲ使用による汁物具材の残量対策により食べ残しを削減。
- 食材の仕入れ及び調理を担当する株式会社 魚国総本社と連携。

成果・効果

喫食者数予測の自動集計による作り過ぎの予防や、食器の工夫などにより、従業員食堂（約100名利用）の食品廃棄量が7,650g/日から250g/日に減少。

取組実施期間

2016年～現在

【取組①喫食数予測自動集計】 2016.6～

①入場ログより、当日の出社人数を自動集計



②食堂へ自動配信メールで連絡



誤差3%で残量減 ヨシ！

ご飯の食べ残し対策
→丼(中)のみ提供



丼(大)廃止

麺の切れ端を利用した「お子様うどん」の無料提供

取組概要

以前まで廃棄していたうどん生地の麺の切れ端を「お子様うどん」として無料提供することにより食品ロスを削減。

取組のポイント

- この取組は、短い麺(切れ端)だからこそ幼児にとっては食べやすいという逆転の発想から生まれたもの。
- 「お子様うどん」は幼児に無料で提供しているため、お客様にとっても利用しやすい取組となっている。
- うどん店においては必ず出てしまう麺の切れ端を有効活用した取組であるため、他の事業者も実践しやすく、波及効果が期待できる。

成果・効果

以前は1日で丼大盛り5杯ほど廃棄していたが、「お子様うどん」として提供することで、廃棄する部分が全くなかった。
「お子様うどん」は来客の多い土日には、1日あたり30杯程度提供している。

取組実施期間

2010年～現在

株式会社 たけ屋（久留米市）





福岡県食品ロス削減優良取組知事表彰について

○表彰の目的

この表彰は、食品ロスの削減の推進に関する法律（令和元年法律第19号）第16条に基づき、食品ロス削減に資する優れた取組を表彰し、その取組を実施した個人、団体又は事業者の功績をたたえ、もって本県における食品ロス削減の気運の醸成及び取組の更なる推進に資することを目的に行っています。

○対象とする取組

表彰の対象とする取組は、食品ロスの発生を抑制するための取組、食品ロスの有効活用を推進するための取組、食品ロス削減の意識向上に資する取組のうち優れたものであって、当該取組を表彰しようとする年度の4月1日現在までに県の区域内において1年以上継続している取組ものを対象とします。

○表彰する取組の決定

応募又は推薦された取組から、食品ロス削減優良取組知事表彰選考委員会の選考により決定します。

【選考基準】

- ア 食品ロス削減への貢献度
食品ロス量の削減又は意識の向上に寄与する取組か
- イ 波及効果
県民や他の事業者が参加又は実践しやすい取組か
- ウ 創意工夫
アイデアを活かした創意工夫に優れた取組か
- エ 継続性
継続的に取り組んできた実績があるか、
又は今後も継続的な活動が見込める取組か
- オ 主体間の連携
他の主体と連携した取組か

○表彰の募集

第一回となる令和4年度は、令和4年6月14日から8月1日に募集しました。

次回表彰の募集については、詳細が決まり次第、福岡県庁ホームページ等でご案内する予定です。

なお、表彰された取組は、県のホームページや各種広報媒体を通じ、広く県民の皆様を紹介します。

自薦、他薦を問わず受け付けますので、多くの皆様からのご応募をお待ちしています。

福岡県環境部循環型社会推進課

住 所 〒812-8577 福岡市博多区東公園7番7号

連絡先 TEL:092-643-3381 FAX:092-643-3377

メール: recycle@pref.fukuoka.lg.jp

H P <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/>